

史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会（第 26 期・第 4 回）

議事要旨

日時： 令和 7 年 4 月 6 日（日）10:00～12:30

会場：オンライン開催

出席者：石居人也、大橋幸泰、奥村弘、長志珠絵、川嶋四郎、岸本覚、芳賀満、飯島渉、飯塚一幸、太田尚宏、香室結美、久留島典子、後藤真、佐野正博、溝口元、若尾政希、西田かほる（以上、17 名）

欠席者：河西秀哉

4. 議 題

（1）前回議事録の確認

前回の議事要旨を確認し、承認された。

（2）報告「再び日本学術会議資料の保存・管理と公開に向けて」の検討

委員長より「報告/再び日本学術会議資料の現状とその保全・公開に向けて（案）」の文案が示され、その内容を検討した。報告の提出に際しては、まず「意思の表出の申出書」を出すことが確認された。学術会議資料の意義、現代的意味、資料の現状についての説明を入れた方がよいなどの意見があった。さらに 3 章付則 2 条の撤廃についての提言も書いてほしいとの意見があった。経費については、三菱財団研究費に申請したことが報告されたほか、クラウドファンディングの提案や、法人化する際に経費が増加されるので文書の移管についてもその経費に含めるように提案すればよいのではないかとの意見があった。

（3）第 30 回史料保存利用問題シンポジウム

「第 30 回史料保存利用問題シンポジウム」の概要が報告され、日本歴史学協会・日本学術会議史学委員会とともに日本学術会議史学委員会アーカイブズと社会に関する分科会が主催になることが承認された。

（4）コロナ関係資料の保存の件

「新型コロナウイルス感染症のパンデミックをめぐる資料、記録、記憶の保全と継承のために」のフォローアップ・レポート後の役割の具体化について検討した。学術会議に参画している学会や個人から、これまでの取り組みを提出するよう要請してほしいとの意見があった。ついてはコロナ関連の情報を収集する必要があることを分科会で発案し、学術会議幹事会でオーソライズしてもらうこととした。さらにアーカイブズ系の学会から公衆衛生学会などに向けて残すべき資料についての基準・方法などを発言してもらう機会を作ってほしいこと、国際比較をしてほしいとの意見があり、シンポジウムを開催するのがよいのではないかとの発言があった。さらに一般国民へもコロナの時期の状況について聞く機会も設

けてほしいとの意見があった。

(5) その他

学術会議の現状について情報共有を行った。総会に対して日本学術会議法案への反対及び大幅な修正を求める議案を提出したとの説明がなされた。今回の対応は歴史的評価や国際比較の問題につながるものであるなどの意見があった。